

**生命環境科学研究科 応用生命科学専攻（博士前期課程）**  
**研究指導教員の決定と研究指導の方法**

**1. 研究指導教員の役割**

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバスを参考にして個々の学生の指導を行う。
- 3) 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名を決定する。

**2. 研究指導教員の決定プロセス**

- 1) 募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願時に指導を希望する教員を選択する。
- 2) 入試時の面談及び研究計画書をもとに、専攻教授会において研究指導教員を決定する。
- 3) 原則、入学までに指導教員を決定する。

**3. 研究指導の方法 ※1**

- 1) 研究計画の立案（1年次）
  - ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。
  - ② 指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献調査方法・文献読解方法などを指導する。
  - ③ 学生と指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行（1年次～2年次）
  - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。研究の遂行にあたり、研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。次いで、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
  - ② 指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
  - ③ 指導教員は、研究の進捗状況について確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- 3) 研究経過の中間報告（1年次10月以降）

学生は、応用生命研究プレゼンテーションの授業において研究経過を報告する。
- 4) 修士論文の作成（2年次）
  - ① 学生は、研究成果をもとに修士論文をまとめる。
  - ② 指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。
- 5) 修士論文の提出・発表（2年次）

学生は修士論文を指定した期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。
- 6) 研究指導報告書の提出（2年次）

指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。